

## 四旬節第1主日の説教

金 大烈 神父 2009年3月1日(日)

《恐れなければならぬのは“堅く、鈍くなる心”》

おはようございます。

今日の福音(マルコ1・12-15)について、2つの点からお話したいと思います。

イエス様は“何”を受けられたと今日の福音では述べられていますか。荒野で何を受けられたのでしょうか。“誘惑”です。“誘惑”とは何でしょうか。“誘惑”はやはり“良い結果”を生めません。“誘惑”とは“良くない結果”が予想されるものです。カトリック信者として“誘惑”と言えば“正しくない勢力”、“正しくない力”からの誘いでしょう。その誘いに乗ってしまったら私達は“負けた”事になります。

しかしそんなに簡単な事ではありません。もし目に見える誘惑なら、「これは誘惑だ」と認識することが出来、その誘惑に打ち勝つ可能性が高いのです。この世の中で一番難しい“誘惑”とはどのような事でしょうか。一番勝ちにくい誘惑とは何があるのでしょうか。はっきり申し上げます。皆様が「それは“誘惑”だ」と思う事、認識する事が出来れば、何とかそれに打ち勝つ可能性がある事を必ず憶えて下さい。

一番難しい“誘惑”は、“誘惑”であるにもかかわらず、それが“誘惑”である事が分からない“誘惑”です。“気が付かない誘惑”です。これが恐ろしいのです。この誘惑には殆ど負けてしまいます。何故この様な事が起こるのでしょうか。誘惑であるにもかかわらず、それが誘惑であると気が付かない誘惑とは、どの様な誘惑でしょうか。

よく考えてみて下さい。私達は朝、目が覚め、起きて色々“選択”をしながら1日を送ります。その中で“誘惑”はどの位あったのでしょうか。毎日どの位“正しくない力”を受けたのでしょうか。よく考えて頂きます。“見えない誘惑”はやはり“心の働き”によって変わります。人間の弱さの中で、もしかしたら一番危ない弱さかも知れませんが、それは“堅くなる心”です。“鈍くなる心”です。子供の時にはとても“罪の意識”を感じたけれども、今は全然問題にならないと思ってやってしまう事が結構あると思います。子供の時には、本当に小さな事で涙を流したのに、今は全然…。私達の心は鈍くなってしまったのです。それでは誘惑に襲われても、それが誘惑だと思えることは絶対出来ません。

今日の福音として、神様の子であるイエス様でさえ受けられたこの“誘惑”。この世の中から“誘惑”そのもの自体を無くす事は出来ないと思います。しかしその誘惑に、出来るだけ勝とうとする、負けないようにする、その為には何よりも自分の心を良く見なければならぬのです。その心を何と言いますか。“良い心”“正しい心”。その良心を神様に全ての人間は頂いたわけです。しかしその良心というものは使い方を間違えると堅くなってしまいます。鈍くなってしまいます。“それが罪である”事を分からなくしてしまうのです。その様な癖があるのを私達は知っています。

結局のところ、私達は死にます。死ぬ時、イエス様はもう一度この様に言われるかも知れません。

『私があなたにあげた綺麗な心はいったいどちらにあるのか?』と。その時の為に私達は準備しなければなりません。答えの為に準備をしなければなりません。「難しさはあったのですが、出来るだけ柔らかい心を持つ努力をし、出来るだけ敏感に正しい事とそうでない事を識別しようと頑張ってきました」という答え位は出来るような生き方を私達はしなくてはならないのです。

皆様、心は働きます。しかしそのまま置いておけば腐ってしまいます。石になってしまいます。使ってください。ドラマを観て涙を流す事があつたらそれを感謝しましょう。生きている印です。面白いものを見て笑いましょう。悲しいことを見て泣きましょう。これが無かったら、私達は“正しくない事”を識別する力を失ってしまいます。

“誘惑”でありながらもそれが“誘惑”だと思わない私達の心、その心をもものすごく警戒しなければならぬ事はとても大事な事だと思います。

さあ、2番目の話に入ります。最後にイエス様が『悔い改めて福音を信じなさい』と言われます。人間が悔い改める理由は何でしょうか。カトリック信者なら次の2つによって「悔い改めなくては」と思うはず。1つは“神様に対しての恐れ。”「この様な事をしてしまった。神様に怒られる。弁明が出来ない」。その怖さ、恐れのために、悔い改めなければいけないと思います。2番目は“神様の愛”です。「この様に私を愛してくれたのに、私はいつも裏切ってしまう。本当にすまない」、「私の為に毎日十字架につけられるイエス様に私は毎日背いている」。そのいう心によって生じる“改め様とする心”です。もし悔い改める事を望むなら、やはり怖くて悔い改める道より、すまなくて悔い改める気持ちが必要です。実際に怖さによって悔い改める事には限界があります。その場を避けようとする心理が働きます。それを避けられたら直ぐに忘れてしまいます。それは怖さからでる悔い改めだからです。しかし愛によって、感謝の心で、すまないという心でもし悔い改める事が出来れば、その悔い改めの心は永遠に続きます。人を変えます。

皆様はこの四旬節、40日間をどの様な形で、何の意向を持って過ごすべきかを良く考えていらっしゃると思います。四旬節の一番大きなテーマは“悔い改める”事です。悔い改める事がテーマになったと言うことは、イエス様に対する愛を実感する事です。“私はどの位愛されているのか”を具体的に感じる事です。

皆様は愛されています。愛されているから、皆様も愛する事が出来ます。この様な事を四旬節の1つの賜として良く黙想し、それを具体的に行おうとする心をお持ちになって下さい。

ありがとうございました。